鉄筋コンクリート構造配筋標準図　その１

§１　一般事項

１－１　基本事項

１）使用材料、工法等は構造特記仕様書による。

２）設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。

また本標準図に明記なき場合は、次による。

優先順位の高いものから、公共建築協会「公共建築工事標準仕様書」、

日本建築学会［鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」、日本建築学会

「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」とする。

使用図書は最新版とする。

３）本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。

４）本標準図に示す単位は特記なき限り全てmmとする。

１－２　その他

§２　共通事項

２－１　鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記　号	●	×	⌀	●	○	⊙	⊗	◎	⊕	◆	⊠
呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

・フックがない場合

・フックがある場合

・本数に差がある場合　（多い／少ない）

・機械式継手表示

・溶接継手表示（ガス圧接）

・異形鉄筋の径「d」は、呼び名に用いた数値とする。

２－２　鉄筋の折曲げ形状・寸法

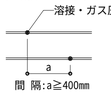
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		
		SD295,SD345		SD390
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180 °	余長4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135 °	余長 6d以上			
90 °	余長 8d以上			
135 °及び 90 °（幅止め筋）	4d以上／余長4d以上			

１．片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90 ° フック又は135 ° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

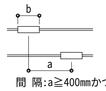
２．90 ° 未満の折曲げの内法直径は特記による。

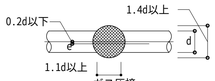
２－３　継手一般

１）溶接・圧接継手

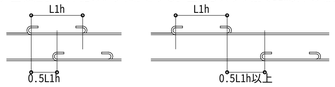


２）機械式継手





３）重ね継手 （下記のいずれかとする。壁及びスラブ筋でD16以下の場合を除く）



※フックなしの場合は、L1hをL1に置き換える。

４）D35以上の鉄筋は、原則として重ね継手は用いず、溶接または機械式継手等とする。

５）鉄筋径の差は、ガス圧接の場合は7mm以下とする。

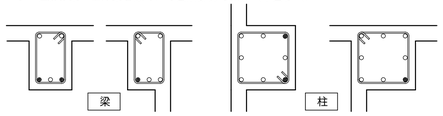
６）突合せ溶接継手および機械式継手の場合は、メーカー仕様による。

２－４　鉄筋のフック

・次の１）～７）に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。

１）あばら筋及び帯筋　　２）煙突の鉄筋

３）柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）



上図の ● 印の鉄筋の末端にはフックが必要。

４）片持ちスラブの上端筋の先端

５）最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋

６）杭基礎の基礎筋

７）鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

２－５　鉄筋のあき

・鉄筋のあきaは原則として下記による。

隣り合う鉄筋径「d」の平均の1.5倍以上

粗骨材の最大寸法の1.25倍以上　　かつ25mm以上

※Dは最外径を示す

２－６　かぶりの厚さ

鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部分の種別				最小かぶり厚さ	
採用する欄に○印を記入すること→				標　準	特　記
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり		20	
		仕上げなし		30	
	柱 梁 耐力壁	屋内	仕上げあり	30	
			仕上げなし	30	
		屋外	仕上げあり	30	
			仕上げなし	40	
	擁壁、耐圧スラブ			40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			＊40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			＊60	
煙突等高熱を受ける部分				60	

１．＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し軽量コンクリートの場合は特記による。

２．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。

３．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。

４．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

５．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

６．柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋径の1.5倍以上を最少かぶり厚さとする。

２－７　鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の重ね継手長さ L1,L1h

L1：フックなし
L1h:フック付

鉄筋の種類 ＼ Fc(N/mm2)	18	21	24～27	30～36	39～45	48～60
直線重ね継手の長さ L1	SD295	45d	40d	35d	35d	30d	30d
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d
	SD390		50d	45d	40d	40d	35d
	SD490			55d	50d	45d	40d
フック付重ね継手の長さ L1h 180 ° フックの場合 ※	SD295	35d	30d	25d	25d	20d	20d
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d
	SD390		35d	35d	30d	30d	25d
	SD490 <90 ° フックのみ>			40d	35d	35d	30d

※フックを135 ° フック、90 ° フックとする場合のフック形状は2-2による。

鉄筋の定着長さ L2,L2h

定着長さ
L2：直線定着
L2h：フック付定着

鉄筋の種類 ＼ Fc(N/mm2)	18	21	24～27	30～36	39～45	48～60
直線定着長さ L2 90 ° フックの場合※	SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390		40d	40d	35d	35d	30d
	SD490			45d	40d	40d	35d
フック付定着長さ L2h	SD295	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390		30d	30d	25d	25d	20d
	SD490 <90 ° フックのみ>			35d	30d	30d	25d

※フックを135 ° フック、180 ° フックとする場合のフック形状は2-2による。

小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3,L3h

下端筋定着長さ
L3：直線定着
L3h：フック付定着

鉄筋の種類 ＼ Fc(N/mm2)	18～60 小梁	18～60 スラブ
直線定着長さ L3	SD295 SD345 SD390	20d <25d>	10dかつ 150mm <25d>
フック付定着長さ L3h	SD295 SD345 SD390	10d	

※＜ ＞は片持ち部材の場合を示す。

折曲げ定着長さ La,Lb

折曲げ定着長さ ＼ Fc(N/mm2)	18	21	24～27	30～36	39～45	48～60
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La	SD295	20d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	20d	15d	15d
	SD490			25d	25d	20d	20d
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ Lb	SD295	15d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	15d	15d	15d
	SD490						

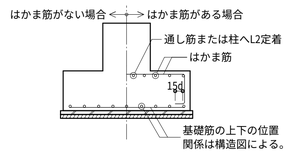
１．軽量コンクリートを使用する場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

２．柱及び梁の主筋並びに耐力壁の重ね継手長さは特記による。
特記がない場合、耐力壁の鉄筋の重ね継手は40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表の重ね継手の長さのうち大きい値とし、耐力壁以外は上表の値とする。

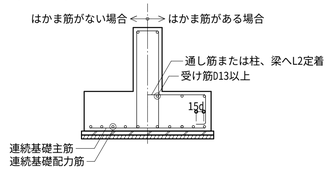
§３　基礎

３－１　フーチング基礎

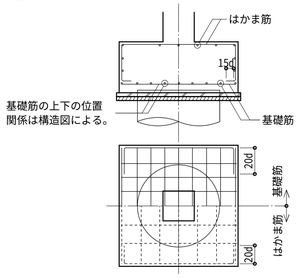
１）直接基礎(独立基礎)



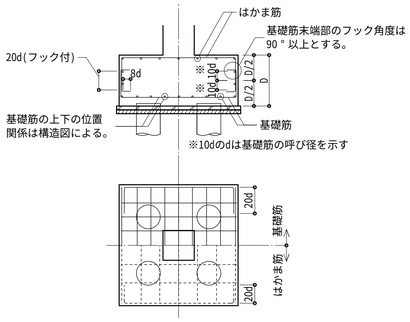
２）直接基礎(連続基礎)



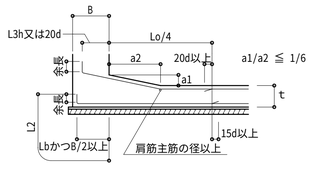
３）杭基礎(1本杭)



４）杭基礎(2本杭以上)



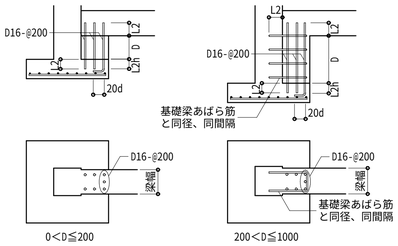
３－２　べた基礎継手及び定着



３－３　基礎と基礎梁との接合部補強

１．基礎梁と基礎の取合い部補強要領は構造図による。
構造図に記載のない場合は、以下による。

２．取合い部補強の幅は、基礎梁と同じとする。



SAMPLE

発行 一般社団法人 熊本県建築士事務所協会
熊本市中央区九品寺四丁目８－１７　熊本県建設会館　別館２階
令和　７年　４月　改訂

建築士法及び著作権法により、本標準図の全部もしくは一部のコピーは禁じられています。
本標準図は１物件１工事ごとに原図を使用して下さい。

設計者

工事名称

図面名称　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

番号

承諾